

## 税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。

日本中を夢中にさせた第5回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)は3月22日、



侍ジャパンが決勝戦でアメリカを下し3度目の世界一を達成し幕を閉じました。

勝因が大谷選手、ダルビッシュ選手などの大リーグ組に国内組を加えた侍ジャパンの選手層の厚さである事は誰しもが認めるところでしょう。

しかし、チームの結束力を高め、選手の個性・能力を引き出した栗山英樹監督の存在

が大きかった事は間違いありません。あらためて組織を指揮する指導者の大切を感じさせられる出来事でした。

さて、私たち中小企業の経営者が同じ境遇かと言えばそうではありません…。各チームから優秀な選手をセレクトできた侍ジャパンと数少ない戦力で戦う中小企業では条件が違いすぎます。

世間はすぐ結果を求めますが、チーム編成に時間がかかり、ファーム(2軍)で選手に手取り足取り教えて一人前に育てる。これが私たち中小企業の経営者の腕の見せ所です。

## 「話せばわかる」は大嘘

このような大胆な表現で、平成で1番売れた新書と呼ばれる本書、「ばかの壁(養老孟司著、新潮社、2003発行)」が始まります。著者は元東京大学医学部教授で、還暦を迎え人生観の集大成として出版しました。



著者は大学の授業で、学生にどんなに一生懸命「話してもわからない(理解されない)」事がある事実を実感します。

授業の一環として、あるビデオ(出産風景)を見せたところ、ある人は「とても感動しました」と興奮し、ある人は「まあ、知識として知っている内容」でしたと冷たく答えます。その温度差に著者は驚かされます。

薬学部の講義なので聞いている人の偏差値(能力)にそんなに差はありません。筆者曰く、「自分が知りたくない(興味がない)ことについては自主的に情報を遮断して」いる、これが一種の「バカの壁」なのだと言います。

要は当事者意識を持っているか、いないかの違いで、人は聞いている内容の理解力やその後の行動に差が出るのです。さすがに今後「バカの壁」という言葉はあまり使いたくないので、「バカ」は控え、「壁」と表現します。

その壁の存在は、中小企業の経営者の皆さんも感じる事が多いとは思いますが…私たちのチームは侍ジャパンではありません。どうやって説明し、どうやって教えたら、仕事の本質を「わかって(理解して)もらえる」か…悩み続けるのが私たちの運命です。

佐藤寿志税理士事務所 006-0023 札幌市手稲区手稲本町3条1丁目1番1号  
TEL(011)699-5925

## あるものが・見えない

手稲の工業団地に大きな工場ですが、塀が広いにも関わらず毎年「春になると綺麗な花をたくさん飾る」会社があります。

ある会合で、その会社の経営者 A さんにお会いしたので、いつも綺麗で心が和みますとお話し「従業員の皆さんで飾るのですか？」とお聞きしたところ・・曇った表情で A さんは「そんな時間があつたら仕事をしたい」と従業員が言うので自分と奥さんで楽しんで飾っていると話していました。



一方、お客様や社員・経営者が毎日歩く玄関の前に「大きな雑草が存在感たっぷりに生え秋を迎える」会社があります。たぶん・・「お客様以外」の社員・経営者の目にその雑草が映らないのでしょうか・・。前者・後者に「壁」の存在を感じます。

## 人は・慣れる（劣化する）

大企業のみならず、中小企業であっても 5S(4S もあり)の大きな標語が飾られている工場があります。偏差値が高く、物事への理解力(学習力)がある優秀な社員を採用している大企業にとっては初歩的と思えるような標



語がなぜ必要かという、例の「壁」の存在が原因なのでしょう。

一方、日本民営鉄道協会では、鉄道の現場に立つ職員が対象を指差し声に出して行う、安全確認のための基本動作「指差喚呼(しさかんこ)」の徹底に努めています。

例えば、ホームにいる駅務員が、電車の入ってくる前と発車した後、線路上を指差している場面や運転士が「出発進行！」などと声を出しながら信号を指差している姿をよく目にします。このように、行動や動作に移る前に、視覚だけに頼らず、「指差し」という身体動作によって念には念を入れて安全を確かめることでヒューマンエラーの撲滅に努めているのです。

これは、長年の経験から来る、例の「壁」対策の知恵なのでしょう。そのぐらい、人間の脳は制御が難しいものなのです・・。

## 今月のことば

人生でも野球でも運・不運がついてまわります。

その運を味方にするには、やれることをやり尽くしてはじめて可能になる

(栗山英樹：侍ジャパン監督)

### 編集後記:

ある会合で、従来から運営する大学に加え、本年4月から新たに高校を新設した学校法人の理事長 B さんとお話しする機会がありました。B さん曰く、古くからいる 50 代の教員が“改革を渋り”困っている。どうやら、若い人から出る“活発な意見、画期的な意見を潰す”のが自分の仕事(?)と勘違いしているようで、これも例の「壁」の存在が原因です。私事ですが・・このような悩みは企業から毎日相談されています。本当に、この「壁」の存在には困ったものですね(寿)。